



浜田和幸の 永田町便り

第32号

2014年11・12月合併 編集・発行 浜田和幸事務所 URL <http://www.hamadakazuyuki.com> BLOG <http://ameblo.jp/hamada-kazuyuki>
東京事務所 〒100-8962 東京都千代田区永田町 2-1-1 参議院議員会館 719号室 Tel 03-6550-0719 / Fax 03-6551-0719
鳥取事務所 〒682-0023 鳥取県倉吉市山根 583-3 サンヴェルツエ I 2F Tel 0858-24-5018 / Fax 0858-24-5038

次世代が希望を持てる日本を創ろう

次世代の党に入党

浜田和幸議員は11月20日、衆議院議員会館で「次世代の党」の平沼赳夫党首や江口克彦顧問、藤井孝男総務会長と共に記者会見を行い、入党を発表しました。昨年3月に国民新党の解党後、1年半に渡って無所属で活動してきましたが、「数の論理」が優先される永田町にあって、これまで培ってきた知識や経験、国内外の要人とのつながりを最大限、国政に反映すべく、個人から政党活動へと大きく舵を切ることになりました。政策の軸がしっかりしている次世代の党の一員として、同志と共に国難に立ち向かう決意を新たにしています。



浜田議員の記者会見翌日の21日、安倍首相が衆議院を解散しました。これにより12月2日公示、同14日投開票の選挙戦が事実上スタートし、各党は政策集や公約作りに着手し、立候補予定者や関係者は地元と東京を行ったり来たりで、永田町は一足先に師走入り

のごとき慌ただしい様相です。

次世代の党は27日、東京で「結党の集い」を開催し、約500人の支援者を前に、公認候補が決意を述べました。この後、ジャーナリストで国家基本問題研究所理事長の櫻井よしこ氏が講演し、日本が置かれている危機をチャンス

平沼党首[㊦]と江口顧問[㊧]らと共に
記者会見する浜田議員

変える必要性を説き、「次世代の党がその役割を担うことができる立場にある」とエールを送り、会場は熱気に包まれました。



スタイナー事務総長[㊟]と神戸学院大学 岡部芳彦准教授[㊟]と共に

シュバイツァー賞を受賞

(11月20日のブログ)

永田町では木枯らしならぬ解散風が吹き荒れています。何のために700億円もの税金を投入して師走選挙を行うのでしょうか。衆議院選挙の影響で、参議院での法案審議は中途半端な終わり方となりつつあります。実に残念な流れと言わざるを得ません。

地方創生のためにも、世界と伍していけるような成長戦略を徹底的に議論すべき時だと思いますが、与党の動きに反発し、大半の野党は審議拒否。限られた時間とエネルギーを日本や世界のために最大限に生かさねば。そのためにも新たな動きを起こさねばと思う今日この頃です。

そんな折、オーストリアから突然の来訪者が。アルベルト・シュバイツァー協会のスタイナー事務総長です。「人類皆兄弟」と訴え、アフリカでの医療活動や平和運動で知られた哲学者シュバイツァーの功績を顕彰する団体の責任者。何と、小生のヨーロッパで

の友好親善活動に注目し、特別功労賞を持参したとのこと。

まさに寝耳に水のお話です。とはいえ、目の前に賞状と記念のメダルを提示されては断れません。感謝の気持ちとともに、謹んでお受けしました。人生を常に前向きにとらえ、20世紀を代表するヒューマニストであったシュバイツァー博士の名を冠した賞を与えられた意味を噛みしめているところです。

今こそ、参議院議員としての使命をしっかり果たさねばと、遠来の客人との対話を通じて考えさせられました。

トルクメニスタンの詩人 マグトゥムグリの偉業を偲ぶ

(11月24日のブログ)

今年はトルクメニスタンが生んだ世界的詩人マグトゥムグリの生誕290年にあたります。それを記念し、彼の詩をより多くの

人々に知ってもらおうと、30の言語で翻訳出版がなされました。見事な日本語版の詩集も完成。

そこで、トルクメニスタンの歴史や文学、そして日本を含むアジアとの交流を検証するシンポジウムが盛大に開催されました。「人は誰しも精神的理想に向かって努力を重ねるべきだ」という教訓的詩文は時代や国境を越えて我々に訴えかけてきます。叡智、慈愛、祖国の平和や繁栄への願いを込めた「詩」の数々。

「苦難の時の戒め」からは征服者から祖国を守る魂の叫び声が伝わってきます。そうした情熱が今日のトルクメニスタンの独立を支えているに違いありません。日本からはODAはじめ、農業、医療、環境関連分野での協力案件が進行中です。

昨年には念願の大使館が日本に開設されたばかり。両国の信頼と友情が一層深まることを願った次第です。

最多の質問主意書提出

52日間に終わった臨時国会の会期中、浜田議員が提出した質問主意書数は31件で衆参合わせた国会議員の中で最多となりました。このうち、「朝日新聞の慰安婦記事訂正」や「イスラム教徒に供する食品のハ

ラル認証」、「日本国籍を持つ『イスラーム国』の外国人戦闘員」に関する主意書など、多くの政府答弁書がマスコミに取り上げられ、国境を越えて中韓のニュースにもなりました。有権者からの問い合わせも多かったため、

過去に提出した質問主意書やマスコミ報道をまとめたページを議員ホームページに新設するなど、委員会質疑の登壇数に並ぶ主要な活動の一つとなり、中身の濃い1か月半となりました。